

平成22年 8月分

大芝出張所管内

福間 さん

観察月日

連絡事項等

8月15日

先月14日の豪雨から一カ月経過したこの日、受け持ち区間の高瀬堰一大芝水門(約8^{キロ})の様子をみて回った。

◎高瀬堰

太田川本川に加え根谷川、三篠川の流れを受けとめる堰だけに、6基の水門が流量調整を行なっている。先月14日豪雨の際はすべての水門は全開され、ピーク時は毎秒4,000立方^{メートル}放水するなど、濁流の渦で荒れ狂った当時の情景は想像できないほど穏やかな流れに戻っていた。

ただ、当時の激流を思わす痕跡として、川底にはこぶし大の河原石が無数に堆積していた。

◎10～11^{キロ}ポイント

この区域はグラウンド用地が点在している。軒並みグラウンドの土がえぐられ使用不能状態になった。地元の少年野球チームの練習場となっているグラウンドは無理を言って土砂を入れてもらって、一カ月後に練習を再開した。

しかし、入れられた土砂はほとんどが砂だった。ボールは弾まないし、グラウンドには足を取られる始末。それでも、子どもたちは大声を張り上げ元気いっぱい。指導者のNさんは「子どもたちの早く練習したいとの声で、砂を入れたが、厳しいグラウンド状況です。早く土のグラウンド整備を望みたい」と訴えていた。

また、グラウンドゴルフ場では、地域の人たちが出て、土砂搬入からグラウンド整備まで手掛けるなど、地域パワーの底力を発揮していた。

◎ゴルフ場

5年ぶりの完全水没。従業員20人がコース場の砂堆積、石、流木などごみの除去に取り組み、アウトコースは7月末、インコース8月4日営業再開にこぎつけた。同ゴルフ場の関係者は「冠水の宿命から逃れられないとはいえ、きれいな芝生を回復させるためには努力、根気の要る仕事」と、豪雨禍を嘆くことしきりだった。

◎大芝水門

本川と放水路が分岐する中央部に中州が出現した。干潮時には一辺が100^{メートル}あろうかと思われる砂山の堆積物。「今年2月に堆積した砂を取り除いたばかりなんです。」大芝出張所長はうんざりした表情で、新たに出来た砂山を見詰めていた。

※堤防から河川敷を見る限り、特に雑草で覆われた緑の部分は鮮やかさを取り戻したように見える。だが、河川敷に降りて見ると、地肌がめくれ、足をとられるほどゴツゴツした足の裏の感触には驚かされた。大雨をしっかりと受け止めた河川といえども、受けたダメージは相当大きなものようだ。地肌を露出した河川敷は浸食に弱いことも改めて知った。

8月22日

手づくりのいかだで太田川を下るユニークな大会が8月22日と同29日に開かれた。いずれも、自然環境の大切さに関心を持ってもらおう、という狙いから企画されたもので、趣向を凝らしたいかだに道行く人の笑いを誘っていた。

「太田川・川くだりフェスタ」(写真①)と銘打った大会は牛田公民館を中心に周辺の子ども会の小学生、それに大学生らを含めた35人が参加した。

手づくりいかだは6艘。発泡スチロール、古タイヤ、ペットボトルを組み合わせたいかだに6、7人づつが乗り組み、午前11時に安芸大橋下から一斉にスタート、ゴールの祇園大橋まで1.5^キを約2時間かけてのんびりと下った。

同大会事務局のNさんは「この大会も今年で5年目です。子どもたちが集めたペットボトルは1,200本。子どもたちは発泡スチロールとペットボトルを巧みに組み合わせて浮力を工夫しました。川は風もなく流れも穏やかで、いかだ操縦に夢中になりながらも、水と戯れながら思いきり楽しみました」と話していた。

▽写真①

いかだ下りに挑戦する牛田学区の子どもたち(牛田公民館提供)



8月29日

「尾津記念太田川いかだ下りカワニバル」(写真②)は太田川いかだ下りカワニバル実行委員会主催、今年で23年目の歴史を誇る大会。広島県内や、遠くは岡山から駆け付け総勢120人の参加で賑わった。いかだは発泡スチロールで組み立てられている。安佐大橋一空鞆神社(中区)間約8^キ区間で、約4時間かけてパフォーマンスを繰り広げた。いかだの中には葦簾を屋根代わりにした「屋形」も登場した。大会の警備隊長を務め、参加者の安全を図ったさんは「猛暑の中で4時間かけた川くだりを満喫しました。仲間のカヌー4艇も加わって、変化に富んだ川からの景色を思い存分楽しむことができました」と語っていた。

▽写真②

“屋形”を模したいかだで川下りを楽しむ人たち



モニターからの情報に対する大芝出張所の回答

8月15日の情報
について

10～11ヶポイントの小田グラウンドの整備は、完了いたしました。

管理第一課からの意見・感想等

猛暑が続く中、モニター活動ありがとうございます。
7月の豪雨から一カ月経過しましたが、高水敷は洗掘した状態で残っているところがあり出水の被害の大きさがうかがえ、今後、整備が必要な箇所については作業を行う予定です。
太田川いかだ下りカワニバルには、太田川河川事務所の職員も参加し、前夜祭や川下りを楽しみました。
モニターをするに当たり最も残暑の厳しい時期ですが、体調を第一に考えたご報告をお待ちしております。